

パラオブルーサポーターの蔵王町訪問による 蔵王町国際交流協会との意見交換・交流会

1月8日(土)・9日(日)

本市のホストタウン交流事業に携わるボランティア「パラオブルーサポーター」が、友好都市である宮城県蔵王町を訪問し、蔵王町国際交流協会の皆さんと「市民・町民同士でできる交流」をテーマに意見交換・交流会を行いました。

意見交換会では、参加者がグループに分かれて各自治体の魅力を紹介し、その魅力を相手住民に知ってもらう方法を考えました。それぞれの参加者からは、「常陸大宮市の親子を蔵王町に招待して親子スキー教室を実施してはどうか」、「常陸大宮市の郷土料理であるけんちゃん料理を蔵王町の給食に提供して子供たちに味を知ってもらうことが良いのでは」など、今後の交流につながる活発な意見が交わされました。交流会終了後、蔵王町の参加者から「この機会がなければ常陸大宮市のことを深く知ることができなかった」などの声がありました。

そのほか、サポーターは、パラオと蔵王町が交流するきっかけとなった北原尾地区を訪問し、パラオからこの地へ開墾入植した方から話を聴くなど、蔵王町への理解を深めました。訪問を終えて、サポーターの長山あや子さんは、「訪問交流を通して、両市町の魅力を再発見できた。このような交流を子供たちができたら良い友好都市交流になると思う」と感想を述べました。この取組が、友好都市間の今後の様々な分野における住民同士の交流につながることを期待しています。



▲意見交換の様子

常陸大宮市ホストタウン交流会 ～パラオフェア2022～

1月29日(土)・30日(日)

「太平洋の楽園パラオ共和国を知ろう！体感しよう！」をテーマに、「パラオフェア2022」を開催しました。

今回のイベントでは、パラオブルーサポーターが中心となり、参加者にパラオの「食」「伝統文化」「観光」「環境」について知ってもらう体験会を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ホストタウン関連の展示会と会場となった道の駅常陸大宮～かわプラザ～との連携によるコラボレーションフードの提供のみを行いました。ホストタウン展示会では、本来実施する予定だった体験会を紹介するコーナーを設置したほか、会場の入り口には、パラオ政府観光局の協力により、パラオの伝統的集会所「バイ」を模したパネルを展示し、来場者にパラオをPRしました。

一部内容を変更して実施したパラオフェア2022でしたが、来場者からは「展示を見てパラオに行きたくくなりました。」「もっとパラオを知りたくくなりました。」などの感想がありました。



▲パラオの伝統的集会所「バイ」を模した入り口



▲パラオブルーサポーターによる展示コーナー